

# Liberty

九州共立大学／九州女子大学／九州女子短期大学 学園広報誌【リバティ】

Vol. 04  
2010  
Autumn

特集-1  
Eye And Mind, Now And Future.

## 理事長の眼、 学長の心。

- 理事長室で刻まれる「福原時間」
- 理事長が語る福原学園の透視図

特集-2  
地域と輝く福原学園

Progressive Professors 教育活動最前線

九州共立大学 経済学部経済・経営学科

森部昌広 特別客員准教授

九州女子大学 家政学部人間生活学科

山野美咲 講師

Active Student's Report

■九州共立大学／ボウリング・日本代表

和田翔吾くん

■九州女子大学／手話サークル・学生サポーター

中嶋 瞳さん

Origin Of Our Principle

「自律処行」の源流

## The Brilliant Days

ふと、思い出のアルバムを開いて



【創設者・福原軍造の銅像建立／昭和48年】

その日も、空は青く澄んでいた。  
四半世紀も前、  
初めてこの場所に学校を開いたとき、  
こんな日が来るなど、  
夢にも思わなかった。  
無言で振りかえる創設者の傍らで、  
妻もまた、想いを深くしていた。  
自らの銅像を面はゆく見上げながら  
それまでの20数年を  
静かに振り返っていた人。  
福原軍造は、やはり生粋の教育者だった。  
そんな創設者の精神を受け継ぐ  
いまの総帥は、  
ここで、学生たちに語りかける。  
創設者の心を、彼が説いた理想を。  
今日も、この青空の下で、  
微笑みながら、  
若者たちの瞳に未来への光を見ながら。

## Liberty

学園広報誌【リバティ】  
九州共立大学／九州女子大学／九州女子短期大学

Vol. 04  
2010 Autumn

事務局：福原学園 法人事務局 総務部 総務課  
TEL：093-693-3083  
URL：http://www.fukuhara-gakuen.jp/  
発行：学園広報委員会  
発刊日：平成22年11月1日



■ Origin Of Our Principle  
「自律処行」の源流【第2回】  
広角レンズの  
大らかさと、  
望遠レンズの鋭さと。

■ 特集-1 ..... 02  
Eye And Mind, Now And Future.

# 理事長 の眼、 学長の心。

● 理事長室で刻まれる「福原時間」  
● 理事長が語る福原学園の透視図

■ 特集-2 ..... 08  
地域と輝く  
福原学園

■ Facilities Of LIBERTY HILL  
学びの神は設備に宿る ..... 10  
● 九州共立大学 硬式野球部グラウンド  
● 九州共立大学 共立キッチン・  
スマイルステーション

■ Progressive Professors  
教育活動最前線

# 7 ..... 12  
スポーツビジネス分野における  
人材開発の研究

九州共立大学 経済学部経済・経営学科  
森部 昌広 特別客員准教授

# 8 ..... 14  
ファッションカラーコーディネートに関する  
家庭科教材の開発と  
配色面積の違いが与える  
心理的影響の研究

九州女子大学 家政学部人間生活学科  
山野 美咲 講師

■ Active Student's Report  
課外で輝く

# 5 九州共立大学 ..... 16  
ボウリング・日本代表

九州共立大学 スポーツ学部スポーツ学科3年  
和田 翔吾くん

# 6 九州女子大学 ..... 18  
手話サークル・学生サポーター

九州女子大学 人間科学部人間文化学科4年  
中嶋 瞳さん

■ Liberty TOPICS ..... 20  
リバティ・トピックス

■ From OB & OG To You ..... 21  
贈る言葉、送る想い



# Liberty

学園広報誌【リバティ】  
九州共立大学／九州女子大学／九州女子短期大学  
Vol. 04 2010 Autumn  
CONTENTS【目次】



## Origin Of Our Principle

### 「自律処行」の源流

福原学園の学是「自律処行」は、創設者・福原軍造の熱い想いが生み出した箴言である。  
彼がめざした真の教育とは何か。  
“建学の人”の横顔とともに、かつての日々を振り返る。

広角レンズの  
大らかさと、  
望遠レンズの鋭さと。



創設者・福原軍造愛用のキヤノンFT。  
彼は、とくに風景写真を好み、海外に出  
向くときも、この一眼レフを手放さな  
かった。ボディには、現像されないままの  
フィルムが、いまま残っている。

眼が、違っていた。  
対処すべき問題にあたって、  
あるいは初対面の人を前にして、  
福原軍造は、つねに、  
対象の奥底に潜む本質をひと目で看破した。  
その鋭い視線の光源は、しかし、  
猜疑や藪藪の類ではない。  
眼差しは、いつも慈愛に満ちていた。  
真っ直ぐでいて、あたたかい。  
あたたかも、早春の森の葉からもれる  
やわらかな陽光のようだった。  
若者に道を説くときはもちろん、  
教員を導くときも、職員を叱咤するときでさえも。  
そんな軍造が愛したのがカメラである。  
風景を撮るのが好きだった。  
あるときは、広角レンズの大らかさで人を捉え、  
そのすべてをやわらかく包んだ。  
またあるときには、  
望遠レンズの鋭さで物事の細部をつかみ、  
その深奥をも射抜いてみせた。  
”いま”を見つめ、”あした”をも見通した慧眼の人。  
その視線が切りとったはずの一瞬が、  
現像されないまま、  
愛用の一眼レフに、いまま残っている。



# 理事長の眼、 学長の心。

特集-1

ただよう威風と、  
さりげない心遣いと。

法人棟と呼ばれる耕雲館。福原学園の理事長室は、その3階にある。重厚感たっぷりの扉を開けてみる。ちょっとしたオフィスなら、そのまますっぽり入ってしまうようなほどのスペース。学園全体を統べる人の舞台にふさわしい空間である。が、その広さに反して、そ

## Visiting Into The Chairman's Room 理事長室で刻まれる 「福原時間」



こは、「余裕“や”ゆとり」といったものを超えた何かに満たされているように思えた。  
「ようこそ。さあ、どこでも好きなところを見てくださいね」  
笑顔は、今日も変わらない。ただよつてくる威風。それでいて、常に相手への心遣いを忘れない。この部屋の主、福原弘之理事長である。



学園のシンボルともいえる耕雲館(法人棟)は、平成7年11月に竣工した。理事長室は3階。  
1階には、創設者・福原軍造の功績を伝える記念ホールがある。

学校法人福原学園 理事長  
九州共立大学 学長  
九州女子大学・九州女子短期大学 学長

# 福原弘之

FUKUHARA Hiroyuki

### Profile

1941年生まれ。福岡大学経済学部卒。1964年八幡西高等学校(現自由ヶ丘高等学校)に教諭として赴任。民間企業の経営者を経て、2004年学校法人福原学園の常務理事に就任する。翌年、副理事長となり、あわせて九州共立大学と九州女子大学・九州女子短期大学の副学長を兼任。2007年、福原学園理事長に就任した。2008年、九州共立大学の学長となり、2010年九州女子大学・九州女子短期大学の学長となる。全日本社会人体操連盟副会長、九州体操協会会長、福岡県体操協会会長、福岡県レスリング協会会長、私立大学協会九州支部監事。趣味はゴルフ、野球、スポーツ観戦。



私心を捨てて、使命に挑む。  
そのときはじめて、  
この重責を  
楽しむことができる。

2010年度から、福原弘之理事長は、九州共立大学に加えて、九州女子大学と九州女子短期大学の学長をも兼務している。学園全体を率いる理事長の眼と、3つの大学をまとめる学長の心。教育者としての視線と、キャンパスの総帥としての視野。「私のすべては学園のためにある」と言い切るその横顔に、私心は微塵もない。いまも胸に残る創設者・福原軍造の想い出とともに理事長が示す福原学園のいま、そして未来。

「お前には、まだ早すぎるッ  
もし、福原軍造が  
この部屋を見たら、  
そう言って  
私を叱るでしょうね。」

ゆったりした空間。  
一流品ばかりで構成されたインテリア。  
余裕と緊張とが緋い交ぜになった独特の空気のなかに、  
理事長のやわらかな微笑があった。  
キャンパスを見下ろす耕雲館の高層。  
学園の“司令塔”、理事長室を訪ねてみた。



### いまも、甦る創設者の言葉。

まず感じたのは、“視線”であった。見ると、壁に大きな写真が掲げられている。学園の創設者にして初代理事長。福原軍造の黒い瞳が、こちらを見据えていた。「そうです。いつも見られている……という感じですね。間違っていないか。学園のトップとして恥ずかしくなくやれているか。自分への戒めとして、ここに飾っています」

懐かしさに、わずかな緊張感を交えながら、理事長は語りはじめる。一方福原軍造は、偉大な教育者だった。一方で崇高すぎるほどの理想を掲げ、同時に直面する現実と真っ向から対峙する。そんなリアリストでもあった。理事長の胸には、いまも創設者の厳しい言葉が甦ってくる。

「勉強は、陽が沈むまでに済ませろ。暗くなったら終了。燃料がもったいない」。十段という達人ぶりで鳴らした柔道について、「道具がいらんから、いい」と笑っていた。なにより、この学校自体、自らツルハシをふるってつくったのだ。釘一本、疎かにしたことはない。質素や



初代理事長・福原軍造。この澄んだまなざしが、いつも現理事長を見つめている。



理事長は、23歳で八幡西高等学校(現自由ヶ丘高等学校)の教諭となり、初代監督として野球部を率いた。(左端が理事長。その隣が福原軍造)

儉約などという言葉を軽く超越していた。「『贅沢だッ。お前にはまだ早すぎる。』もし、軍造が生きていてこの部屋を見たなら、そう言って私を叱るでしょうね(笑)」

### 受け継がれ、刻まれつづける“福原の時間”。

その軍造から託されたものがある。かつて、全国日本学士会から軍造の功績を讃えて贈られた金の懐中時計。裏には、菊の御紋も刻まれている。「ええ、ひとつの財産を譲り受けたようなものですよ。持ったびに、『初心を忘れるなッ』と諭されているようで、背筋が伸びます。落とすといけなから、特別なときしか持っていないませんけどね(笑)」



全国日本学士会から福原軍造に贈られたという懐中時計。菊の御紋が刻まれている。

## A Day In The Life.

【ある日の福原理事長】

- 06:00 起床
- 07:00 朝食
- 07:45 犬の散歩をかねて学園を散策(通りかかった自由ヶ丘高校の男子生徒と談笑)
- 08:50 出勤/理事長室へ
- 09:20 当日のスケジュール確認
- 09:40 稟議書の決裁
- 10:00 九州共立大学で会議
- 12:20 学食に出向き、学生たちとまじって昼食(女子学生たちの就活の悩みを聞く)
- 13:30 九州女子大学・九州女子短期大学で会議の事前打合せ
- 14:00 九州女子大学・九州女子短期大学教授会
- 16:00 九州共立大学野球部グラウンドで練習の視察
- 18:00 八幡西ロータリークラブのメンバーと会合
- 22:20 帰宅
- 23:50 就寝



壁に掲げられている創設者の写真。鋭くも穏やかな視線が、今日も理事長を見据えている。



「私はオシャレな方かもしれませんが」と語った理事長。ジャケットの胸には、いつもポッケチーフを忘れない。



The Chairman's Perspective  
理事長が語る  
福原学園の透視図

学園の理事長と3つの大学の学長。すべてを兼任して見えてきたもの。

私が福原学園の理事長になって3年が過ぎました。2010年度からは、九州共立大学に加えて、九州女子大学と九州女子短期大学の学長も兼任することになり、仕事も責任もさらに広がっています。理事長としてだけでなく学長としても3つの大学を率いる身になってみると、改めてそれぞれの大学の違いや特徴が見えてくるものですね。

まず、九州共立大学。この広大なキャンパスを舞台に、さまざまな教育研究が進められています。九州屈指の充実度を誇るクラブ・サークルは活気にあふれて

おり、とくに運動部は、毎年さまざまな大会で好成績をおさめています。これは大きな魅力です。

一方、九州女子大学と九州女子短期大学は、確かな基礎教育と実社会を想定した専門分野の指導が特徴です。多くの学生が学友会やボランティアなどの活動に取り組んでいて、学生時代から地域との関わりを持っています。

3つの大学に共通しているのは、いずれも自由な校風で、活気にあふれていること。さらには、地域との密接な連携によつて地元との確かなネットワークを持っていること。いずれも、ほかの大学ではなかなか見られない特徴であり、魅力だと自負しています。

いつも、すぐそばで学生たちを見守っていたい。

そんな学生たちが大好きだし、一人ひとりが可愛くて仕方がない。教育者としての私の原点は、この想いに尽きると思います。

普通、理事長や学長といえば、学生にとっては雲の上の存在でしょう。話を聞くといつても、せいぜい入学式とか卒業式くらいのもので、面と向かって話す機会なんてまずない。一般の教職員にとつても、似たようなものかもしれませんね。でも私は、常に彼らの近くにいたい。だからこそ、こちらから積極的に近づいていくことを心がけています。学食にもよ



若者の未来と地域の明日を重ねあわせる。そこに、私学の使命がある。

理事長としても、あるいは学長としても、福原弘之という人は、やはり異色ではないだろうか。

学園全体に君臨する総帥でありながら、なお、キャンパスのあちこちで、その気さくな笑顔を見ることができると、

あるときは、学食の定食に舌鼓を打ち、あるときは、花壇で土に向かう。

またあるときは、何気なくすれ違った学生と語り合う。

そんな理事長が、教育者としての心と学生たちへの想いを語る。

この激動の時代に、変わるべきもの。変えてはならないもの。

知識を蓄えるのも大切ですが、学生たちに本当に磨いてほしいのは、やはり人間性です。

たとえば、お金のこと。私はよく学生たちに、こう言います。「友だち同士でお金の貸し借りをするな」と。どうしてもお金が必要なら私に借りに来ればいい。そう言ったら「いくらまでなら大丈夫ですか?」と訊いてきた子もいました(笑)。

もちろん、甘やかすのは論外。叱ることも大切です。でも、頭ごなしにどやつけるのは感心しない。たとえば、ときどき学校の近くで駐車違反をしている子を見かけますが、私はいつもこんなふう

に言っています。「君、いいクルマに乗ってるな。でもこれじゃあ、愛車がかわいそうだろう。ちゃんと駐車してあげなさい」すると、彼らも分かってくれますよ。あまりに基本的なことですが、こうした地道な人間教育をつづけながら、彼らのなかに眠っている可能性を開かせていく。



For The People,  
For Our Town,  
From FUKUHARA.

地域と輝く福原学園

# 学びあい、高めあう。 その歡びが 地域の未来を照らします。

この街で暮らす人々の活動を応援し、  
地域の活性化を支えていきたい。  
そんな想いから、福原学園はさまざまな地域貢献活動を展開している。  
公開講座やフォーラム、市民カレッジなど、  
文化と教養を磨く多彩なプログラムが特徴。  
学園で培われた“知のエネルギー”を人や街に還元することで、  
地域に新たな活力を与えている。

特集-2

福原学園が推進する地域貢献。その活動の中心となっているのが、キャンパス内にある生涯学習研究センターである。1994年の開設以来、大学ならではの専門知識や高度な技術を地域に提供することをおして、地域の社会人のキャリアアップを支援。公開講座やフォーラム、市民カレッジなどの多彩な企画が人気を呼び、センター利用者はのべ2万人を超えるまでになっている。

生涯学習研究センターの活動のなかで、とくに注目を集めている企画のひとつが「資格取得支援プログラム」である。本学園の学生はもとより、地域の人々も数多く受講しており、個々のスキルアップや就職活動に役立てられている。多彩なプログラムが人気の公開講座では、タイプの異なる2種類の講座が開かれている。

ひとつは、福原学園の教員がその専門性を活かしながら進める「個別専門講座」である。もうひとつは、本学園の施設を利用し、市民の方が知識や特技を活かして参加者に伝える「市民講師講座」。「染色工芸」や「楽しく学ぶ切り絵」といった日々の暮らしに活用できる分野の講座に人気が集まっている。

さらに、生涯学習研究センターの主催事業として「西日本生涯学習フォーラム」がある。センターで実施される企画のなかでも最も大きなイベントのひとつで、毎年、時流を捉えたテーマを設定。講演、シンポジウム、交流会といった多彩なプログラムで構成されている。

日本は、世界でも希な超高齢化社会である。しかし、それは「人生をリタイヤし、活力を失ったお年寄りばかりの社会」ではない。高齢ではあっても、人生をより有意義に楽しみたい。そのために、さまざまなことを学びたい。そう願う「活力にあふれた熟年世代が増えていく社会」なのである。当然、今後も生涯学習へのニーズはますます高まっていくことだろう。

こうした時代の要請にこたえて、「学びの拠点」としての環境づくりを進める福原学園。その活動の指針は、「いつでも、どこでも、だれでも生涯学習を受けることができる」というキーワードが表している。

より多くの人に、学ぶ喜びを伝える。街に、元気を創りだす。そのようにして生まれてくるエネルギーの集合体が、地域全体に新たな活力を与えていく。その活力の起点のひとつとして、福原学園は、これからもさまざまな事業を展開していきたく願っている。

就職活動の準備に、スキルアップに。将来へのスキルアップに。注目の資格を厳選して、その取得をバックアップ。

地域のスペシャリストが講師となって、暮らしに役立つ知識やスキルを伝授。



**福原賞**  
文化や体育、および調査研究等の分野で成果をあげた小学生を表彰する「福原賞」。そもそもは、1989年、学園創設者福原軍造の遺徳を顕彰するため福原家から「学校教育に役立ててほしい」と、北九州市に1千万円が寄付されたことにはじまる。今年は、年長者の手伝いや人命救助などに力をそそいだ小学生12名のほか、伝統芸能(合馬子ども神楽)や地域貢献(清掃活動)などで目覚ましい活躍が見られた3団体に、福原理事長から賞が贈られた。

北九州市の学校教育。そのさらなる充実と発展に寄与。



**ボランティアフェスタ in 八幡西**  
八幡西区を中心に活動しているボランティアグループが一堂に集まる年1回のイベント。生涯学習研究センターが中心となって、グループの絆をこえた交流を働きかけ、ボランティア人口の拡大や活動のさらなる充実を図っている。基調講演のほか、ブースを設けてパネルや資料なども展示し、各ボランティア団体の活動も紹介している。

ボランティアの団体相互の交流も、深めながらその活動をサポート。



**市民講師講座**  
北九州市在住の方を講師に招いて開かれるユニークな公開講座。地域のスペシャリストたちの知識や特技に注目し、それを活かしながらプログラムを構成している。「はじめてのフラダンス」や「親子のための音楽教室」など、多彩なラインナップも魅力。



●染色工芸講師  
九州産業大学、九州造形短期大学  
非常勤講師



文化を磨く。教養を磨く。深く、広く、多岐なプログラムが魅力。



**北九州市民カレッジ講座**  
北九州市教育委員会とのコラボによって実施されている事業。市民のニーズに応じて、高度で専門的な学習の機会を提供している。講座は、前期と後期に分かれており、コース内容も多彩。「楽しく学ぼう! 北九州の自然」「原語で読む現代ドイツ文学」「イラストレーター入門」など、文化、教養、自然学など、幅広い分野で展開されている。



**西日本生涯学習フォーラム**

生涯学習研究センターが主催する年1回のビッグイベント。毎回、時代を見据えたテーマを設定し、講演やシンポジウム、交流会などを開いている。2010年は、パジャワール会事務局長の福元満治氏を招いて特別講演会を開催。「アフガンに命の水を」をテーマに、アフガニスタンの現状やパジャワール会の活動について語っていただいた。オープニングを飾る「エアロビクス演舞」も大好評であった。

知りたい! 聞きたい! 学びたい! と、きめきめとした欲求に応える年1回のビッグイベント。



九州女子大学 人間学部 人間文化学科3年  
九州共立大学 経済学部 経済学科3年

**吉本恵里香さん**  
【MOS (Excel・Word) エキスパート講座】  
【MOS (PowerPoint) 講座】  
資格を取得することによってパソコンのスキルが証明され、就活でも自己PRになると思い、受講しました。配布された問題集がとても解りやすく、先生もゆっくり授業を進めてくださるので、パソコン初心者の人でも大丈夫ですよ。

**坂本詳太くん**  
【旅行管理者講座】  
説明会に参加したとき、資格は将来の力強い武器になることを知り、本講座を受講しようと思いました。覚える内容が多くてたいへんでしたが、観光名所などにも詳しくなれるので、楽しく受講できましたよ。



**少年野球教室**

地元福岡ソフトバンクホークスで活躍している大学OBのプロ野球選手を招いて開催される少年野球教室。2010年は、九州共立大学野球場で開かれ、柴原選手、田上選手、新垣選手、馬原選手、高橋選手らが子どもたちの指導にあたった。

憧れのホークスで活躍する選手が、直接指導。野球をとおして子どもたちの育成に貢献。



# 学びの神は設備に宿る

## 九州共立大学 硬式野球部グラウンド

公式戦の舞台にもなる  
本格的グラウンド。  
リニューアルを経てさらに環境も充実。

1995年に整備された九州共立大学のホームグラウンドは、これまで多くの野球人を育ててきました。地元福岡ソフトバンクホークスで活躍する馬原投手や新垣投手も、このグラウンドで汗を流し、プロへの道をつかんだのです。5人同時にピッチング練習が行えるブルペンやダッグアウトをもち、グラウンドには水はけのよ

い土と芝生を整備。日々の練習によって摩耗した芝も、このほど部員たちの手によって新しく植え替えられました。また、2009年には一部をリニューアルして外部フェンスを新設。バックスクリーンも増設され、試合本番と同じ環境で練習に取り組めるようになりました。

このグラウンドは、地元の少年野球チー



ムなどにも貸し出され、地域貢献のアイテムのひとつにもなっています。また、リーグ戦などの公式試合にも使用され、いまやここは九州における大学野球の拠点といっても過言ではありません。さらに定期的に開かれている少年野球教室では、プロで活躍する九州共立大学OBをコーチとして招聘。次代を担う野球人の育成にも貢献しています。

現在、野球部の部員はおよそ140名。さまざまな大会で結果を出しており、その名声も手伝って各地から優秀な選手が集まっています。野球部は全寮制。まさに“野球漬け”の日々ですが、学問にも熱心に取り組んで文武両道を確立しています。

部の目標は、もちろん全日本大学野球選手権大会で好成績を残すこと。現在、3年連続で選手権大会出場を果たしており、今後についても野球部内外から期待が高まっています。



## 九州共立大学 共立キッチン(食堂)・スマイルステーション(売店)

キャンパスライフを応援する  
憩いのスポットが  
新たなネーミングでリニューアルオープン。

九州共立大学の食堂と売店が新しくなりました。これにともなって、各店舗の名称を学生から広く募集。数多くの応募がありました。厳正な審査の結果、食堂は経済学部2年横田智子さんの「共立キッチン」に、売店は経済学部3年竹原尚史くんの「スマイルステーション」に、それぞれ決定されました。このほか、審査員特別賞もそれぞれ2名ずつ選出され、7月23日(金)に記念品の贈呈式が行われました。



「共立キッチン」を命名した横田智子さん(右端)

「共立キッチン」は全394席を備え、メニューも和・洋・中とバリエーションが豊富。日替わり定食や丼物に人気があり、季節を感じさせる旬の食材を使った料理も登場します。また、低価格でありながらボリュームがあるのも大きな魅力。勉強やスポーツに励む学生たちの食欲を十分に満たしています。

軽食や文房具、雑貨などを扱う「スマイルステーション」は、常時1,000点以上の品揃えを誇り、内容もさらに充実。スポーツドリンクなどの飲料や、手軽に食べられる唐揚げなどがよく売れています。学生からは「ほかのコンビニと比べて安い」という声も聞かれ、評判はすでに上々。イートインスペースやセルフサービスの電子レンジも設置されていて、店内で購入した商品をもその場で食べられるようになっています。



「スマイルステーション」を命名した竹原尚史くん(左から2人目)

## 多彩な顔。異色の人。

教員としては、異色というべきであろう。まず、プロのコンディショニングコーチとしての顔がある。自ら考案したトレーニング理論を駆使して、多くのアスリートたちを指導してきた。そのなかには、高橋秀聡投手（福岡ソフトバンクホークス）や福岡鉄平CTB（トップリーグ東芝ブレイブルーパス元主将）、石橋顕選手（北京五輪ヨット49er級日本代表など）も含まれている。

企業を率いる経営者としての顔も見逃せない。彼が代表取締役を務める会社は、トレーニングジムをはじめスポーツに関する幅広い事業を展開している。さらには、多くのスポーツ関係団体で役職を務め、その合間にスポーツ関連の書籍を執筆。かと思えば、オリジナルソングの歌詞を書いたりもする。

九州共立大学では、「スポーツビジネス分野における人材開発」をテーマに、極めてユニークな授業を展開してきた。しかし、これほどまでに深くスポーツに関わっているながら、その風貌からはいわゆる「体育会系」の薫りはただよってこない。精悍でありながらも知的。情熱的でありながら冷静。スリッともよく似合う。森部昌広特別客員准教授（以下准教授）は、さまざまな意味において、やはり異彩を放っていた。

## 体験型実習で、社会人としての実力を磨く。

森部准教授は、スポーツビジネスに20年以上も関わってきた。そのなかで実感したのは、「使える人間がほとんどいない」という問題だった。そこで人材開発の必要性を痛感したわけだが、育てるべき人材のレ

当然ながら、最初は失敗の連続である。スタッフの手伝いをしたくても声さえかけられない。頼りにもされない。ヘタをすれば、お荷物扱い。冷やかな視線のなかで、自身のふがいなさを思い知ることになる。そして、そこを抜け出すには、自らを変えていくしかない。

「結局のところ、問われるのは社会人としての実力なんです。スポーツビジネスといっても、仕事の仕組みや内容は一般のビジネスと変わらない。取り扱う商材やサービスが「スポーツに関するもの」というだけです。だからまず、社会人としての常識を身につけること。そのうえで、自分の行動に気を配りながら少しずつプロジェクトに貢献していく。自己改革がなければ、自己実現なんてあり得ません」

## 就活で証明された実践力。いまや複数の内定も珍しくない。

程度の差はあるにせよ、人は誰も「目を背けてつづけてきた自分」を心の内にかかえている。森部ゼミでは、そんな自分と向き合うしかない環境が容赦なく設定される。大学生でありながら、どこか屈折した感さえあった若者たち。彼らも、言い訳も泣き言も許されないビジネスの戦場に放りこまれ、打ちのめされながら、確実に変わっていく。

企業は、冷徹なもの。弱者のルサンチマンに耳は貸さない。が、強者への道を見つけた者を見逃すこともしない。見違えるほどの変身を遂げた彼らの実践力は、就活という形で表れる。結果、複数の内定をもらう学生も出てきている。

「森部先生の学生は、とても



## Looking Good Goods!

### 【見たいモノ、聞きたいコト】

愛用のデジカメは、自身のブロガー写真で大活躍。でも、「シャッターの反応が遅いので、スポーツに向いてない」とか。「これを人前に出すだけで話が弾みます」というのが3年ほど前か「これは人前に出すだけで話が弾みます」というのが3年ほど前か「これを人前に出すだけで話が弾みます」というのが3年ほど前か

# 自己改革から自己実現へ。 究極のプラス思考」で、 若い魂を 未来志向に変えていく。

果たして、いくつの顔をもっているのだろうか。多彩な舞台。幅広い人脈。豊かな実績。ときに誰よりも厳しく、ときにどこまでもやさしく、学生一人ひとりを見つめながらそのなかに眠っているポテンシャルを引き出していく。クールな熱血漢。スマートな異才。話題の人、森部昌広准教授が、人材開発の極意を語りはじめ。

ベルが問題になった。

「単に『〇〇をやった』というレベルではダメなんです。『〇〇という案件に関わり、そこで□□という職務を担当し、そのことをとおして△△に関する◇◇という業務マニュアルを作成した』という具体的な話がきちんとできる。そこまでの人材を育てていくのが私の授業です」

ゼミを見ると、その言葉の意味がよく分かる。森部ゼミの基本は、体験型実習である。学生たちは、テレビ局や新聞社などが主催する多くのスポーツイベントにさまざまな形で関わり、現場での業務をこなしながら学んでいく。

まずゼミ生には、スーツの着用が義務づけられている。名刺とシステム手帳は必須。関わったイベントとその業務については、すべて報告書を提出しなければならない。

大学生とは思えない」。企業の人事担当者が漏らすそんな言葉が、彼らの即戦力ぶりを言い表している。

このユニークな指導方法の根本に、さまざまな顔をもつ准教授ならではの体験と独自の世界観があることはいうまでもない。

「使える人間になれ」。森部ゼミでよく聞かれる言葉である。しかし、それは「他人の意思に従って動く」という意味ではない。

「できることなら、与えてもらう人生より、自分で刈り取る人生」に向かつてほしい。つまり、給料をもらうのではなく、自分で獲ってくるという発想です」

「究極のプラス思考」。自らを評して、そう語った森部准教授。彼はまた、若者たちの志向をプラスに変えていく達人でもあった。



# 森部昌広

MORIBE Masahiro

## 07 スポーツビジネス分野における人材開発の研究

九州共立大学 経済学部経済・経営学科 特別客員准教授

1964年、福岡県生まれ。担当科目は、スポーツビジネス入門、スポーツビジネス論、地域の発展とスポーツビジネスなど。プロフェッショナル・コンディショニングコーチとして幅広く活躍するとともに、スポーツビジネス分野の指導者として教壇に立つ。九州共立大学総合研究所副所長。(社)全日本コンディショニングコーチ協会(NCCA)理事長。株式会社オール代表取締役社長。『学校スポーツケガをさせずに強くする』(毎日新聞社)をはじめ著書も多数。



美しさ。その秘密は“比率”にある。

ミロのビーナスはなぜ美しいのか。ギリシャのパルテノン宮殿は、どうして心を引きつけるのか。オウムガイの殻は、なぜあんなにも完璧な螺旋なのか。その秘密は、黄金比と呼ばれるバランスにあるといわれる。

ビーナスの場合、ポイントはおヘソにある。なんとも美しい。形状もだが、その位置が面妖なのである。このおヘソを分岐点とした上と下の長さの対比、ここに人が「美しい」と感じる鍵が隠されているのだ。パルテノン宮殿なら、建物の高さと横幅。オウムガイの殻の場合は、ひと巻き“の直径と長さ。それらは、いずれも「1対1・618」の比率となっている。これが黄金比である。



西洋だけではない。日本にも白銀比（大和比）と呼ばれるものがある。こちらの比率は「1対1・14」。仏像の製作や法隆寺の建立などの際にこの比率が用いられたという。身近な例では、A4やB4といった紙の規格（縦横比）に活かされている。この黄金比や白銀比が示す「美しさの真理」に、ファッションの視点から

迫ろうという研究者がいる。それが、山野美咲講師である。

”嗜好“を数値化することの難しさ。

主な専門分野は被服学。自ら服をつくり、服の本質を見つめることで服と人の関係を探索している。なかでも際だっているのが、カラーコーディネートに関する研究である。

被服（着るもの）は、人間にとって最も身近な“環境”といえる。地球環境や社会環境は、個人の都合や嗜好で変えられはしない。が、人の想い次第で手軽に変えられる環境もある。服は、その代表といっている。

被服の個性は、形・素材・色の3要素で構成される。なかでも、着る人にとって最も選びやすく、大きな心理的効果をもたらすのが色である。それゆえか、多くの研究者がこの「配色効果」にテーマを求めた。そこで山野講師は、あまたの先行研究を踏まえ、なお独自の視点から服飾の世界に光を当てようと試みたのである。

ファッションといえば華麗だが、研究の現場は極めて地味なものだ。被験者にさまざまな色のサンプルを示し、そのイメージを5段階の評価尺度で数値化して統計をとる。配色のイメージを表す「目新しい」とか「若々しい」「春らしい」といった形容詞を20語以上設定。その一つひとつに、「非常に（目新しい）」とか「やや（目

## 服飾にひそむ美の秘密。

## その謎を解きあかし、色彩の黄金比“に挑む”。

人が「美しい」と感じるものには、秘密がある。謎めいた真理がある。その秘密を、服飾の世界に見いだそうとする研究者がいる。服飾の本質を見つめ、自らの手で服をつくり、そこに宿るはずの“美の真理”に挑みつつける人。山野美咲講師を、教室に訪ねた。

育者として彼女たちに何を伝えているのだろうか。

「まず『働くことは楽しい』という姿を見せていくこと。学生にとって教員は、最も身近な社会人のひとりでしょう。その私が楽しく働いていないと、彼女たちは仕事への希望を失ってしまうから……」

研究の現場では、生身の人間を相手の調査に没頭し、ものいわぬ膨大なデータと格闘する。服づくりにおいては、流行や時勢にアンテナを張りながら、同時に経緯に織り合わされた繊維を見つめ、ミリ単位の緻密さで美を創造していく。それらすべてをひたひたするまで「働くことは楽しい」と言い切る人。その心のなかで、「苦難」と「欲び」は、あるいは「華やかさ」と「地道さ」は、どのような比率を示しているのだろうか。



### Looking Good Goods!

【見たいモノ、聞きたいコト】

服は“曲面”なので、定規ではなくメジャーでなければ正確な寸法は測れない。さらに、「これがないと仕事にならない」というピンクッション（針山）も、被服製作必須のアイテム。6年ほど使っている手づくりの手帳は、「自分でつくった初めての革製品」とか。

08 ファッションカラーコーディネートに関する家庭科教材の開発と配色面積の違いが与える心理的影響の研究

YAMANO Misaki

# 山野美咲

九州女子大学 家政学部人間生活学科 講師

1980年、福岡県生まれ。2005年、九州女子大学家政学部人間生活学科助手となり、2008年より同学科講師。専門は家庭科教育、被服学。被服構成学、被服材料学、被服繊維学、染色加工学、家庭科教育法などの科目を担当。趣味は繊維製品（服、バッグ、小物、インテリアなど）を手づくりすること。

# Active Student's Report #5

## 課外で輝く

◎九州共立大学／ボウリング・日本代表

### 感謝の気持ちが原動力。 この一投に魂をこめて、 未来への ストライクをねらう。

和田翔吾くんがボウリングをはじめたのは5歳の頃。ジュニア時代から活躍し、九州共立大学に進んでからは大学と折尾スターレーンのサポートを受けながら着実に実力をつけてきた。これまで支えてくれた人たちへの感謝を力に変え、ナショナルチームのメンバーとして、世界とアジア3つの大会でメダルをめざす。



高校3年のときに出場したプロトーナメントで、入賞のお祝いにと当時の師匠が買ってくれたネックレス。「僕の好きな"police(ポリス)"というブランドです。師匠やみんなが喜んでくれたのが嬉しくて、ボウリングをもっと頑張ろうと思いました」

投ごとに変わるレーンコンディションを見極めて、投球も変えていく。技術に加えて読みと対応力が求められます」

対戦する相手との心理戦も大きな鍵となる。「ひとりで勝手に投げているだけのように見えるでしょうが、駆け引きもあるんですよ。相手のレーンはどうなっているか。次はどんな球を投げてくるか。互いに読みあい、仕掛けながら、ゲームの流れをつかんでいくんです」

苦い経験がある。高校1年で出場した国体の団体戦。初めての大きな大会だった。重圧と耳を劈くような歓声に呑みこまれ、自分を見失ってしまった。焦るほどに崩れていくスコア。勝てたはずの試合が惨敗に終わった。息がでなくなるほど泣いた。思い知らされたのは、自らの未熟とボウリングの深さ、そして恐ろしさだった。

涙は、人を逞しく変身させる。辛い経験を糧に成長をつづけた若者は、日本代表チームにまで駆け上がった。そんな和田くんにとって、ボウリングとは何なのか？

「恩返しです」。答えに淀みはなかった。

「ボウリングを続けてこられたのは、これまでサポートしてくれた多くの人たちのおかげです。だから、プレーヤーとしての実力はもちろん、礼儀とかマナーとか、いろんな面で恥ずかしくない選手になりたい。それが僕の夢だし、使命だと思っています」

胸には、感謝の気持ち。背中には、"Japan"の文字。支えてくれる人々の夢をも背負いながら、和田くんは世界へ飛翔する。



ゆっくりとボウルを持ち、ピンを見据えた。胸の前で固定された球体は、彼の頭よりも大きく見える。脚が踏み出された。が、上半身は揺るがない。振り抜かれる右腕。遠心力と、腕力と、闘う者の魂を引き受けたボウルが、レーンに放たれる。

直進する球体。それが、あらかじめプログラムされていたように弧を描いた。轟音。いや、快音か。ピンが弾け飛ぶ。コンマ数秒の沈黙を合図に、拍手が鳴り響く。小さく頷きながら、和田翔吾くんの顔がほころんだ。

幼い頃から、ボウリング場が遊び場だった。プロボウラー並の腕を披露する父の大きな背中。力強いスイング。笑顔と歓声。それらを憧れとともに見つめながら、少年もまたボウルを手にした。

「見た目と違って、とても奥が深い。言葉で説明するのは難しいんですが……」と前置きして、和田くんは語りはじめた。

「毎回、同じように投げてもストライクはとれないんです。レーンに塗られているオイルの状態によってボウルの動きがどんどん変わっていきますから。」



WADA Shogo

九州共立大学  
スポーツ学部スポーツ学科3年

### 和田 翔吾くん

#### Profile

自由ヶ丘高等学校出身。ボウリング愛好家である父の影響で5歳からボウリングをはじめた。その後、折尾スターレーン所属のプロボウラーに師事。2010年は、全九州チーム選手権で個人1位、団体2位。第44回全日本ボウリング選手権大会と第47回西日本ボウリング選手権にも出場した。将来はプロボウラーをめざしている。



Active Student's Report #5

惨敗。号泣。  
そして、再出発。  
リベンジは、  
世界の舞台で  
果たす。

# Active Student's Report - #6

## 課外で輝く



■九州女子大学手話サークル  
 部員はおよそ40名。手話を読みとる「手話技能検定」の資格取得を目標に活動しているほか、文華祭では手話の歌を披露。指導者がいないため、部長を中心に自作のテキストで習得に励んでいる。

■学生サポーター制度  
 福岡市教育委員会と協定を結んだ大学が、学生を福岡の市立学校に派遣する制度。授業や課外活動で教師をサポートする。九州女子大学と九州女子短期大学では、2008年からこの協定を結んでおり、今年は中嶋さんを含む3名の学生が参加している。

予想は、気持ちよく裏切られた。中学高校では、剣道部の部長を務めたという。大学では、1年のときから部長として手話サークルを引っ張ってきたとも聞いていた。「いかにもリーダー」といった、風格の人。そんな想像をしていたのだが、中嶋瞳さんは、まるでかすみ草のようにフワリとした空気をまとっていた。

「仲間からはお母さんのような存在……なんて言われたりしますが、どうでしょうか？」

その笑顔が、彼女の心のありようを表しているようだった。かすみ草の花言葉が「清らかな心」だと知ったのは、暫くしてからのことである。

手話のきっかけも「お母さん」だった。

「母が手話教室に通っていたこともあって、子どものころから福祉やボランティアに関心がありました。手話をはじめたのは小学生のときです」

手話は、聴覚に障がいをもつ人だけのものではない。日常生活でも、ちよつと便利な通信手段になるという。

「剣道の試合のとき、応援席にいる母と『次の試合は何時から?』なんて、手で会話ができたんです。『これはスゴイ。ぜひ極めたい』と思いました(笑)」

もうひとつの「学生サポーター」も、彼女にとって大切な活動である。

「特別支援学級の子どもたちに勉強を教えているんです。彼らは感情表現がとても素直。そのせいか、相手の感情を敏感に読みとります。なかには言葉でうまく表現できない子もいて、最初はコミュニケーションのとり方に苦労しましたね」

夢は、特別支援学校の教員になること。進む道は一直線だが、学ぶことは無限にある。

「子どもたちと接するなかで学んだのは、本気で怒ることの大切さです。危ないことをしたり、人を傷つけたりしたとき、『そんなことしちゃダメよ』と厳しく叱る。これも、教師の仕事なんです」

手話も、ボランティアも、単なる奉仕や献身ではない。なにより彼女自身が楽しみ、それによって成



NAKASHIMA Hitomi

九州女子大学  
 人間科学部人間文化学科4年

### 中嶋 瞳 さん

Profile  
 福岡県立新宮高等学校出身。小学生のときに手話の楽しさを知り、手話サークルのある九州女子大学に入学。2007年度後期から部長として活動。2008年夏からは学生サポーター制度を活用して福岡市の小学校でボランティアをはじめた。



2009年、学生サポーターとして参加した特別支援学級での算数の授業。「この男の子は、数字が大好き。私に問題を出して、『先生、正解』って言ってくれているところです」

◎九州女子大学／手話サークル・学生サポーター

**人のためだけにではない。自分を磨くために、夢をつかむために、彼女はボランティアを続けていく。**

無言のうちに交わされるコミュニケーション。手話には、メッセージを送る側と受けとる側とのあいだに、やわらかな心の交流がある。部長として手話サークルを引っ張ってきた中嶋瞳さん。その笑顔からも、そんなやわらかな心の波動が伝わってきた。

長し、夢をつかむためのものなのだ。「だから、誰かの力になることによって、私を得たものを社会に返していきたい」と、中嶋さんは願う。

「子どもたちの話を親身に聞いてあげられる。そんな先生になりたい。いえ、なります……きつと」

力強く言って、両手の小指を交差するように繋ぎ合わせた。その向こうに、あの笑顔が見える。そう、「きつと」……。

決意を示す無音の言葉だった。

Active Student's Report #6  
 指切りだから、「約束」。  
 「約束」だから、「きつと」。  
 手話のサインって、  
 けっこう  
 単純な発想だったりします。

# 贈る言葉、送る想い

From OB & OG To You

同じキャンパスで学んだからこそ、分かることがある。  
伝えたい想いがある。

この丘に吹く風を呼吸し、ここから巣立って、いま、さまざまな世界で活躍している先輩たち。  
彼らが、その熱い想いを、言葉にこめて贈ってくれました。

## 何事もいつも明るく前向きに！

昭和45年度工学部(電気工学科)第一期生として卒業し、総合設備工事に就任し、最終的に本店営業本部営業部長を歴任し、現在、エキスパート職員として事業場の指導・支援に当たっています。

当社では私を含め35人の九州共立大学出身者が各部門で活躍しています。

これから皆さんは其々の学部・学科での就学内容に基づき、関係する企業に就職されていかれると思いますが、どんな職種であれ、企業を支えていく源は「人」です。

そこで一言、企業が求める人材とは「勇気と信念をもって、何事も明るく前向きに取り組める人」です。

会社に入社すると客先や上司との衝突や揉め事も多く発生します。それがいかに前向きに片付けられるかが、企業内外での評価に繋がっていく重要なポイントでもあります。

例えば皆さんの身近な課題で、失恋や生活費に困ったとき、本当に前向きに今後の取り組みを考え行動が出来るでしょうか。



昭和45年度卒 九州共立大学  
工学部電気工学科(ラグビー部)  
中本 佳樹  
(株)中電工山口西部支社  
副支社長

何か案件が発生した時、前向きに動いて見て下さい。動けば必ずそれなりの結果が出てきます。  
「人生の全ては日々の想い(心)が決めるもの」  
まずは学生生活を明るく前向きに！

## 「生きているあいだは、いきいきとしたいなさい」(ゲートル)

学生の頃、一番大切にしていた言葉です。たわいなこと、些細なことに悩んでいた「ありきたり」な大学生活。でも、この言葉の意味を、探すとスタート地点に立っていたような気がします。

卒業後、私は敷地内に通信制高校の学舎を置く工場に就職し、舎監をしながら国語を教えました。「交代制で働きながら学んでいる生徒たちとの生活は、決して「ありきたり」ではありませんでした。強さも優しさも何にも分かっていない自分に気づく日々でした。それでもこの出会いは「生徒たちの役に立ちたい」という夢に私を導いてくれたのです。意味がないと思っていた時にも意味があり、生きる標(「夢」)をつかめず、悩みもがく時も無駄ではない、人とのつながりや自然や見えない力に生かされていることに気づくむしろ大切な時なのかもしれ



昭和56年度卒 九州女子大学  
文学部国文学科  
西山 太佳子  
佐賀県武雄市立武雄北中学校  
教頭

「自分の夢が分からない人もいると思う。それでいい。ただ、そんな人は一生懸命に生きる、それを約束してほしい。毎日を適当に生きていては何も見えてこない。一生懸命に生きていって、全力で生きたなら、いつか自分の得意なこと『夢』が見えてくる」最近、勤務校の校長が生徒に熱く語った言葉です。  
私も適当にはなく本気で学生時代の宿題「いきいきと生きる」の意味を探します。

## 「学生生活の活性化」をテーマに、学生総会が開かれました。

From 九州女子大学・九州女子短期大学

学生たちがメインとなって、学友会活動の基本計画を審議する学生総会。年2回開かれており、今年もその第1回が5月29日(土)に開催されました。

第一部のリーダーズ研修報告会では、学生たちが3班に分かれ、各10分間で研修成果を発表。終了後の質疑応答で活発に意見を交換し、互いの考えを深めていきました。

第二部のシンポジウムでは、テレビキャスターで福原学園特別講師の山本華世さんをコーディネーターに招き、4名の学生パネリストとともにディスカッション。「学生生活の活性化」をテーマに、さまざまな意見を交わしました。

第三部の総会では、議長選出



後に予算案や主要行事予定などの学友会運営について審議。ここで出された貴重な意見が、学生たちのキャンパスライフにさらなる活気を与えることとなるでしょう。



## 今年も「折尾まつり」で、「学園都市・折尾」を全国にアピール。

From 九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学

2010年6月5日(土)と6日(日)の2日間にわたって、「第21回折尾まつり」が開催されました。「まちじゅうがキャンパス・世界のトモダチ学研都市ORIO」をキャッチフレーズに、学園都市として発展していく折尾を全国にアピール。この折尾地区最大のイベントに、2日間でのべ3万人の観客が集まりました。

実行委員には、九州共立大学、九州女子大学、九州女子短期大

学の学生や教職員が参加。学生が主体となって運営に携わり、まつりを大いに盛り上げました。メイン会場となった折尾西公園では、吹奏楽部演奏やダンスコンテスト、折尾神楽などのス

テージョーが人々の歓声を誘っていました。さらに、留学生たちによる国際屋台村では、中国、韓国、タイ、モンゴルといった各国の料理がふるまわれ、行列ができるほどの盛況ぶりでした。



## 福原学園 教育研究 支援助金の お願い

将来を担う学生たちに快適な学びの環境を提供し、優れた人材をひとりでも多く社会に送り出したい。こうした願いのもと、福原学園は、その支援策として「教育研究支援助募金」を募っています。教職員、卒業生、保護者をはじめ、各界の皆様には、ぜひこの趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、寄付をいただいた方は、税制上の優遇措置(\*)の対象となる場合もございますので、ご活用いただきたいと思います。

詳しくは、学園ホームページ (<http://www.fukuhara-gakuen.jp/>) の「福原学園教育研究支援助募金趣意書」をご覧ください。

\*寄付者が企業等の法人の場合、寄付金全額が損金算入できません